

第2回 次世代環境医療シンポジウム ～100年建築とエコホスピタル～開催

大学キャンパス・ホスピタル再編事業事務局
事務局長 小林 忠彦

順天堂大学と早稲田大学とは、昨年より医療と建築とを融合させた次世代環境医療の実現に関する共同研究に取り組んでいます。

昨年、3月に第1回目の記念シンポジウムを有山登記念館講堂で開催し、小川理事長と白井総長による共同研究の協定締結と基調講演が行われました。

今年は、「100年建築とエコホスピタル」と題し、3月1日(月)に第2回目のシンポジウムを有山登記念館講堂で開催しました。300名を超える参加者が基調講演4題、ゲスト講演1題を熱心に聴講されました。

基調講演に先立ち、小川理事長が開式のご挨拶をされました。

小川理事長からは、昨年の記念シンポジウムでも強調された天変地異にも耐えられる堅牢でスタビリティの高い100年建築の実現について、伊勢神宮の遷宮を例に挙げられて先端的な医療が続けられる堅牢な建物を作りたいこと、体を病んでおられる人の心を和ませる癒しの空間を創生したいこと、感染制御の設計や地震時の安全な避難経路の設計など高度な医療技術の展開と建築技術の融合を図りこの地より世界に発信してほしいこと等、本共同研究へ沢山の願いを込めたご挨拶がありました。



開式のご挨拶をされる小川理事長

基調講演は、はじめに、早稲田大学の西谷 章常任理事が「100年建築の条件と安全性のあり方」と題し、100年建築を実現するために必要な構造設計のあり方とメンテナンスのあり方について講演され、続いて、早稲田大学の田辺新一教授から「エコホスピタル」と題して、低炭素社会に向けて病院の快適環境の実現と省エネルギーの両立の面からデータによるエコホスピタルのコンセプトについて講演されました。

次に、早稲田大学の長谷見雄二教授から「病院と防災計画」の題で病院の防災計画を方向付ける基本的な条件と現在研究を進めておられる災害時避難不要病棟の研究成果等について報告がありました。

ゲスト講演は、工学院大学の長澤 泰副学長により「癒しの環境－システムからコンセプトへ－」の講演がありました。建築的な環境が患者の健康回復にいかに関与する要素を持つ病院設計のあり方についての問題の提起をされました。

最後に、順天堂大学の堀 賢准教授より「本質的に安心・安全な病院環境をめざして」と題し、マスクがなくても感染症にかからない安全・安心な医療環境はどうしたら実現できるか共同研究の成果を発表されました。

閉会にあたり白井総長から、共同研究が着実に進展し2回目のシンポジウムを開くことになったことを高く評価され、同時に、早稲田大学の建築学部にとってもこの分野が大変チャレンジに富む分野であり、世界レベルの環境概念を作り上げる大きなきっかけになることへの期待感を述べられました。そして、高い理想を持って共同して素晴らしい病院作りに貢献したいことを表明されました。

講演会の後、小川理事長、白井総長がご出席のもと、関係者の懇親を深めるための会がセンチュリタワー19階で開かれ、共同研究の更なる進展を期待した活発な意見の交流の輪が広がりました。



閉式のご挨拶をされる白井総長